

淋しいアメリカ人

桐島洋子

文藝春秋

淋しいアメリカ人

桐島洋子

文藝春秋

著者略歴

1937（昭和12）年東京生れ。56年都立駒場高校卒業。56～64年文藝春秋に勤務。64年よりフリーのルポライターとして海外各地で取材活動を続け、72年にアメリカ在住の体験を綴った「淋しいアメリカ人」で第三回大宅壮一ノンフィクション賞を受賞。著書に「淋しいアメリカ人」（文藝春秋）「風の置手紙一渚と滯と舵へ」（R出版、角川文庫）「女がはばたくとき」（PHP）「女ざかりの美学」（じゃこめてい出版）「聡明な女性は料理がうまい」（主婦と生活社）「さよならなんてこわくない」（交通公社）「女ざかりからの出発」（文化出版局）等多数ある。

淋しいアメリカ人

きりしまようこ
桐島洋子

1971年5月30日 初版第1刷

定価 950円

1980年10月15日 新装版第1刷

発行者・半藤一利 発行所・東京都千代田区紀尾井町3-23 株式会社 文藝春秋
電話 東京 03-265-1211（代表）郵便番号 102 印刷所・凸版印刷株式会社
製本所・凸版製本 万一落丁・乱丁の場合はお取替えいたします
© 1971 Yōko Kirishima Printed in Japan

*

淋しいアメリカ人 5

人類が魚になる日 39

思慮あるこうのとり 73

要らなくなった人達 105

サイレント・マジORITY
声なき多数の安楽と憂鬱

ノイジィ・マイノリティー
騒々しい少数の焦燥 171

私自身の広告 205

あとがき 244

新装版あとがき 247

写真 装幀
浅井慎平 平野甲賀

淋しい
アメリカ人

淋しいアメリカ人

「立派な風采の会社重役、豪華な会員制クラブのワイルドな乱交パーティーに、情熱的で胸の豊かな女性を伴いたし。性的禁忌が皆無もしくは極く僅かな人で、ロサンゼルス西部に居住のこと」

「筋肉質のスポーツマン、42歳、6フィート、160ポンド、技術者、既婚。同様の男性との誠実で慎重な情交を求む」

「ベトナム駐在の軍属、白人の美しい情婦を囲いたし。召使つきの快適な生活と往復旅費全額を保証」

「ハンサムな黒人エクザクティブと混血の二児。同じく混血の連れ子を持つ魅力的な白人女性と同棲したし。結婚も可能」

「知的で洗練された35歳の既婚男子、白人、長身で美貌。午後の情事に退屈な人妻を求む。夫^{カッ}婦^ブも可。お望みの向きにはこちらもう一人調達可。費用は割勘」

こんな広告を掲載してくれる新聞が日本にあるだろうか。アメリカのアンダー・グラウンド新聞の読者達は、もうどんな赤裸々な広告にも驚かない。その三行広告欄は、すべてがこの調子である。

アンダー・グラウンドといっても、地下の秘密出版ではない。街角の新聞スタンドで、ニューヨーク・タイムズやロサンゼルス・タイムズと一緒に堂々と売られている商業紙なのだ。

ニューヨークで売られている「スクリー」は、その紙名自体が発音するのも憚られる性行為そのものの俗語だから、セックスだけが目当てで、しかもホモが主体のきわめてガラの悪い新聞である。知らずに買った読者は、すべて丸出しの男女が、これでもかこれでもかと股を捻げたり、からみ合ったりの写真の行列に、目を剝くことになる。

アングラ新聞の中で一番充実している読者も多いのは、ロサンゼルス^スの「フリー・プレス」で、次がサンフランシスコの「バークレー・バープ」だろう。

これらは反体制陣営の機関紙を自認するもので、戦争反対、人種差別反対、その他なんでも反対の声高な新聞として、いわゆるサイレント・マジョリティーの目の敵にされている。

その書きたい放題の論文のたぐいは、仲間うちの言葉の洪水で、見るからに独りよがりの前

衛左翼風文章ばかりだから、敬遠してほとんど斜めにも読まず、私はもっぱら三行広告欄だけを愛読していた。私ばかりではない。知る限りの大多数の読者がそうだった。

ともかく面白いのである。人間の欲望がこれほどなまましく露骨に、そしておびただしく陳列された場面をかつて見たことがない。

読み慣れるに従っていろんな略語や隠語の意味がわかって来ると、いよいよ意図は明快になる。

しきりに求められている Bi-girl というのを、はじめ私は Beautiful girl の略だとばかり思っていたが、これはバイ・セクシュアル・ガール、つまり男とも女ともデキますという両性愛の便利な女性のことで、AC/DC というのも同じ意味である。

Three some といわれる三つ巴のセックスが流行っていて、それも男二人に女一人より、女二人に男一人の組み合わせの方により人気があるので、バイ・ガールの需要はふえる一方である。

アメリカ人というのは、どう見てもあまり芸術や文学に強い種族とは思われないのに、「趣味はフレンチ・アート」とか「グreek・カルチュアに造詣が深い」とかいう自己紹介がやたらと目につくのは奇異な感じだったが、これもフランス式やギリシャ式の性的嗜好を意味することがわかった。

近頃はもっとはっきり“Oral love”や“Anus sex”の同好者を求むと謳った広告も少なくない。

Uninhibited という言葉も非常に頻繁に登場する。抑圧されない、つまり既成の道德、常識、宗教の呪縛を脱しているということで、アングラ人種の合言葉のひとつだ。ただし広告用語としての uninhibited は、勿体ぶらずにさっさとヘッドに行きますということであり、さらに、どんなタイプの性行為でもOKという意味合いもあるのだから、“I am uninhibited”と名乗りをあげるには、それだけの覚悟が必要である。

二年前にはじめてアメリカに渡った時、私はしばらく典型的中産家庭に下宿して、コチコチに真面目な共和党員夫妻の世話になっていた。

ある日、街で何気なく買ったフリー・プレスを持ち帰り、居間でひろげてたまたま目に入った広告欄を読み始めたら、それが思いもかけない凄まじさ。はじめは呆氣にとられて目を疑い、氣をとり直して熟読玩味、とうとう嬉しくなって笑い出したら、当惑した顔つきで見守っていたその家の主人が、ついにたまりかねたように叫んだのである。

「洋子、お願いだから、その悪魔の新聞を二度と再びこの家に持ち込まないでくれないか。その連中は病人なんだ。アメリカ人皆が狂い出したわけじゃない。まかりまちがっても、そんな恥しい代物を、日本へ持って帰ったりしないほしい」

それからさすがにおおっぱらに読むのは遠慮して、自室でこっそり拡げることになる。

読むほどに好奇心がつのり、広告の実物を首実検したくなった私は、まず比較的無難な六点を選び出して、返事を書いてみた。

「私は二十五歳の中国女性で、しばらくアメリカを訪れています。でもとても保守的な家庭に滞在しているので、一人歩きも許されません。どなたか私にアメリカの自由を味わわせて下さるような親切なお友達ができたらとねがっています。フリー・プレスの広告にはひどいショックを受けましたが、とても興味をそそられます。私は見も知らぬ方に写真や電話番号をお送りするほどの大胆さまでは持ち合せませんが、もし興味をお持ちでしたら、何月何日の午後一時から三時までに、Hホテルに電話してロビーでミス・リリー・ヤンをお呼び出し下さい」

若い無邪気な東洋の箱入娘、まさに飛んで火に入る夏の虫といった風情ではないか。これなら狼どもも、あるいは本当に親切な人達も、まず食指を動かすだろう。

それにしても成果は期待以上だった。六人が六人とも連絡して来たのである。

いや一人は直接目の前に現われた。

「失礼ですがリリーさんですか」突然耳許に囁かれてギョッと振り向くと、ステイプ・マックイーンを少し小柄にしたような感じのよい青年が微笑んでいた。「ええ、私ですけれど」「や

あ、お手紙ありがとう。ぼくはマイク・スペンサー。今日はちょうど近くまで来るついでがあったので、会っちゃった方が簡単だと思って。さあお近づきに一杯いかがですか」彼はさっさとバーに向う。

「32歳白人、5フィート9インチ、筋肉質で容姿端麗、カリフォルニア大卒、自宅に独り住い、趣味は読書、ジャズ、演劇。性の自由の世界を共に探検できる知的で魅力的で抑圧のない25歳前後の女性との交際を求む」という広告の実物である。

「びっくりしちゃうわ。でも昼間からこんなところで飲んじゃっていいの。一体なんのお仕事？」と、さっそく身許調査を開始。

「高校で歴史と地理を教えているんです。今日の授業は午前中だけだったのでね」

「あら、私は歴史が大好きなのよ、お話が合いそうね」

西洋史に関していろいろと意地悪な質問を試みても、全くボロを出さないばかりか、その博識は相当なもので、どうやら教師というのはウソではないらしい。

「アメリカの高校生って、ずいぶん性的に早熟なんですって？」

「さあ、普通じゃないのかな。そりゃほとんど誰でも経験はしてるけど、すぐ妊娠したりするような幼稚なのが多くてね。でも女の方がやはり上達が早いから、同級の男の子なんて未熟でつまらないらしく、ぼく達教師が盛んに狙われる。夜半によく、今日は親が留守で一人きり

だから遊びに来てえ、なんて電話がかかってくるよ」

「それで行ってあげるの？」

「ぼくは教え子とは寝ない主義なんだ。彼女達が卒業して大学にでも行ってからは、時々つき合うけどね」

彼と私はちょうど同じ頃に同じようなコースの世界旅行をしていることがわかって、思い出話もはずんだが、その間「ミス・ヤン、お電話口へどうぞ」という放送で、次から次へと呼び出される。

一番目は、「魅力的で清潔で服装のよい経済的に安定した中年の独身紳士。食事やボートやその他人生の上等な愉しみを分か合う30歳以上の成熟した太っていない淑女を求む」というビル・ミッチェル氏。ブルツとくるほど響きのよい低音のきわめて折目正しい言葉遣いに魅かれて、数日後にデイトしたが、親子三代のホテル・マンだけあって、その羽毛のように柔かい巧みな人扱いは、エスコートの模範というべきだった。

大金持や退役将軍がいっぱい住んでいるサンタバーバラという美しい海岸の保養地にホテルを持つ彼は、五十前の若さでもうほとんど引退して、毎日優雅に遊び暮している。

大変なボート気狂いで、普通のアメリカ人なら大いな女房子供の写真を入れてある紙入れから、歴代のボートやヨットの写真をソロソロ引張り出して、舌なめずりしながら解説する。子

供の写真よりもっと退屈で往生したが、その豪勢なモーター・ボートに招待された一日は愉しかった。

非常に格式の高いヨット・クラブをはじめ、レストランもクラブも、どこへ行ってもいわゆるお上品な社交の世界で、私も「香港旅行の際お世話になったあちらの実業家の令嬢で……」などと紹介されるのである。もちろんあの怪しからぬフリー・プレスの御縁だなどとはオクビにも出さない。

ミッチェル氏は離婚者で、息子が二人いる。長男はエール大学卒の一流会社幹部候補生だが、次男が長髪のヒッピーになり、親父に小遣いをせびりに来た時にフリー・プレスを置き忘れて行った。一読驚嘆したミッチェル氏が、好奇心のあまりこっそり広告を出してみたら、その週のうちに二十通余りの返事が殺到した。以来病みつきになり、お金に糸目をつける必要のない人だから、一年分広告料を前払いして、毎号同じ広告を出し続けている。

海に面した宏壮な白亜のマンションを訪ねると、船の模型が林立した広い居間の暖炉の横に、手紙の束が積み上げてあった。退屈な時にぼつぼつ読んで、要らないものは燃やすのだという。

その幾つかを読ませて貰ったら、これは広告よりまた一段も二段もなまなましくて面白い。性的飢餓を綿々と訴える未亡人とか、結婚ノイローゼのハイミス、それにおよそ男友達に不自由はなさそうな器量の若い娘さんもある。どういうつもりか夫や子供も一緒の家族写真を同封

してくる人妻もあるし、ヌード写真を堂々と送りつける勇敢な女性も少なくない。なかには婦人科診療的なポーズや性行為中の情景もあって、ギャツと驚かされる。

二番目に電話をかけてきたエディー・クーパーは、「長身ハンサムで教養ある三十一歳の白人、高収入、独身、スポーツ万能」という能書きには確かにウソのない立派な青年だったが、この若きでもう二回も離婚している。そして「静かな東洋女性に、彼女の望むすべてを与えたい」というのである。

「どうして東洋女性がいいの？」「もうアメリカの女族にはすっかり絶望したんだ。決して連中は男を理解しようとしなない。ぼくは滅茶苦茶に働く。毎晩遅くまで、そして土曜日曜もなく働いて、妻達にはあらゆる贅沢を許して来た。それでもやつらは不満で、ぼくのサーヴィスが悪いとわめき立て、千ドルも無駄遣いして私立探偵を雇ったりするんだ」

探偵に尾行させれば、この亭主が仕事ばかりで忙しいわけではないことが、たちどころにわかったことだろう。

彼のホーム・グラウンドだというゴーゴー・バーに連れて行かれた時、私達のテーブルに挨拶に来た色浅黒いラテン系美男子の支配人の、彼に対する態度が妙に狎れ狎れしい。そして胸毛のなかに見えかくれするインド風の首飾りや太い指に喰い込んだ指輪の彫刻が、両方ともエディーのそれとお揃いなのである。偶然にしては念が入り過ぎている。この二人ただの仲では

ないゾと、たちまちピンと来た。

店が看板になってから、支配人とその彼女だというグラマー歌手が加わり、これからエディの邸へ行って深夜のプールで泳ごうという。泳ぐだけならいいけれど、四つ巴セックスなんてシンドイ実験をさせられてはかなわないから、丁重に御辞退申し上げて帰宅した。

「ビバリー・ヒルズに住む富裕で魅力的な実業家。45歳、若過ぎるほど若い女性をスポイルしたい」という広告の主とも電話で話をしたが、これはイヤな奴だった。

「君は二十五にもなって、なんでまだウロウロしているのさ。中国では、もうそろそろ孫でもできる年齢じゃないの」

「そんな生産的な連中は、毛沢東さんの方へ残してきたわ。香港は小さな島ですからね。それよりなぜあなたこそ、新聞広告で女を漁ったりするの。本当にお金持で魅力的なら、女の子なんていくらでもできるでしょうに」

「ぼくは忙しいのさ。なによりも時間が惜しいんだ。男女つき合いのもっともらしい手続きのために、貴重な時間を浪費したくない。といって娼婦を買っても面白くないから、広告で素人を募集して、書類と写真を検討し、可愛い娘が見つければ、食事でもして面接し、具合がよさそうなら寝室にも招待するというわけさ。ところでリリー嬢、君は写真を送ってくれなかった。いくら声が魅力的でも、顔立ちのわからない相手に多くの時間を賭けることはできないから、